

## 令和8年度事業計画書

令和7年度に開催された東京2025デフリンピックをはじめ、本年に開催されるミラノ・コルティナ2026パラリンピックや愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会など、国際的な大会が続き、障がい者スポーツへの理解と関心を高める機会となっている。これらに出場する、本道にゆかりのある選手の活躍が認知されることは、北海道における障がい者スポーツの可能性を示すものでもある。こうした機運の高まりを一過性のものとせず、本道各地域における継続的な取組へとつなげていくことが求められる。

一方で、これらのトップステージで活躍するために求められる競技力は、身近な地域での日常的かつ継続的な活動を通じて培われるものであり、各地域におけるそうした活動の積み重ねは、競技力を育むばかりではなく、スポーツを通じた社会参加の機会として、健康と心豊かな社会生活の実現にも寄与し、障がい者スポーツの広い裾野を形づくるものとなる。

当協会の事業の多くは、障がいのある方がスポーツに触れ、継続して取り組むことができる環境を整備するものであり、地域における障がい者スポーツの裾野拡大に重要な役割を果たしている。また、各種競技大会の開催等は、競技力の向上にも寄与するものである。

特に、広域である本道においては、地域ごとの条件や実情を踏まえながら、安定した活動環境を積み重ねていくことが重要である。

当協会では、これらを踏まえ、本年度も全道各地で各種事業を展開し、本道における障がい者スポーツの普及・振興の一層の推進と、参加機会の拡充に努めて参りたい。

### I 大会開催等の事業（公益目的事業1）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

#### 1 大会開催事業

##### (1) 第64回北海道障がい者スポーツ大会の開催

障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進し、道民の理解を深めることを目的として6競技を開催する、うち5競技は胆振管内西部の4市町において実施し、室蘭市が大会事務局として大会運営の中核を担う。同地区での開催は22年振りとなる。なお、バスケットボール競技は、同地区に実施可能な市町村がないことから、同競技の普及に努める、北海道FIDバスケットボール連盟主催の既存大会と合同で実施する。

長い歴史を誇る本大会は、道内最大規模の障がい者スポーツ大会として、本道の障がい者スポーツの中核的役割を担っており、広域な本道の特性を踏まえ、振興局単位の持ち回り開催により、参加機会の確保を図っている。また、多くの地元競技団体やボランティアの参画を得て実施しており、開催地域における理解促進にもつながっている。

本大会は、全国障害者スポーツ大会に派遣する北海道選手団の予選会を兼ねており、陸上競技に参加した選手を対象に、令和9年度に宮崎県で開催される全国大会に出場する代表選手を選考する。

- 開催年月日 令和8年10月4日（日）
- 開催市町 室蘭市・登別市・伊達市・豊浦町
- 参加見込数 選手330人 役員等300人 合計630人

実施競技	開催地	競技会場
陸上競技	室蘭市	入江運動公園陸上競技場
車いすバスケットボール	登別市	登別市総合体育館
サッカー	伊達市	まなびの里サッカー場
ソフトボール	豊浦町	豊浦町民グラウンド
フットソフトボール		

- 開催年月日 令和8年12月20日（日）
- 開催市 北広島市
- 参加見込数 選手180人 役員等100人 合計280人

実施競技	開催地	競技会場
バスケットボール	北広島市	北広島市総合体育館

※ 本競技については、第23回北海道FIDバスケットボール選手権大会を兼ねる。

## (2) 第46回北海道障がい者冬季スポーツ大会の開催

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図るとともに、道民の共感と、共生社会の理念の浸透を促進し、本道における障がい者の冬季スポーツを発展させることを目的として開催する。

本大会は、道内の障がい者スキー大会で唯一、大回転競技と距離競技の両競技を実施し、三障がいの選手が集う大会として毎年継続開催してきた。本道は冬季スポーツに恵まれた環境にあるものの、近年は競技人口が減少傾向にあるほか、開催地の選定にも苦慮しているのが実情である。その対策として令和7年度は、各競技を別日程、別会場による分散開催としたが、開催継続性の確保と、それぞれの競技運営の充実を図るねらいからも、本年についても分散開催とする。

本大会では、選手の障がいの程度や競技力に応じて出場するランクが選択できるほか、伴走者との出場も可能とするなど、より参加しやすい大会をとって、初心者、初出場者からベテランに至るまで、広く参加者の満足度が高く、本道における障がい者スキーの普及発展においては、重要な大会と位置付けられるなど、本大会を継続開催する意義は極めて大きい。

- 開催年月（大回転競技）令和9年3月（距離競技）令和9年2月予定
- 競技会場（大回転競技）未定（距離競技）東山公園陸上競技場（岩見沢市）
- 参加見込数 選手100人 役員等100人 合計200人

競技名	開催年月日	競技会場	実施ランク
大回転競技	令和9年3月予定	未定	A～C
距離競技	令和9年2月予定	東山公園陸上競技場（岩見沢市）	A～D

### (3) はまなす車いすマラソン2026の開催

障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深めるとともに、希望と勇気を持って社会に参加する意欲を喚起させ、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者のスポーツの振興及び共生社会の理念の浸透を図ることを目的として開催する。

同時開催の北海道マラソンと共有するコースは、札幌駅前通をスタート地点に、札幌市街中心部を通過するため、市街地を疾走する疾走感とともに、多くの沿道の市民からの声援を受けるため、選手の満足度の高い、全国屈指の大会となっている。

ハーフマラソンには、国内のトップランナーが集結し、激しく競い合い、ショートレースでは、伴走者の参加が認められているため、初心者や障がい者が重度の選手を含む、幅の広い参加がある。これにより、障がい者スポーツの魅力をアピールするとともに、共生社会実現への機運醸成、障がい者スポーツへの理解促進を図る。

- 開催年月日 令和8年8月30日(日) ※前日の29日(土)に受付、説明会等を実施
- 開催地 札幌市
- 参加見込数 選手200人 役員等800人 合計1,000人

実施競技	競技コース
ハーフマラソン(公認コース) 21.0975 km	大通西4丁目スタート～新川西1-1(新川通)フィニッシュ コース名：はまなす車いすマラソンコース
ショートレース(オープン競技) 1 km/2 km	大通西4丁目スタート～南大通折り返し～北3条折り返し～フィニッシュ

### (4) 競技別スポーツ大会の開催(主催・共催)

障がい者が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進、機能回復を図り、参加者との交流を深めることにより、障がいに対する道民の理解を深め、社会参加の意欲の向上を図ることを目的として開催する。

各競技大会は、全道域から選手が集結する唯一の大会であり、日々の練習を積み重ねてきた選手たちが自己の可能性に挑戦するばかりでなく、競技を通じた選手間の交流も活発である。また、競技団体が運営に携わるなど大会スタッフの存在も大きく、本事業が障がい者スポーツに対する理解を深める好機となり、障がい者スポーツを支えるマンパワー拡充にも繋がっている。

タンデムサイクリング大会を除く6大会は、翌年度の全国障害者スポーツ大会に派遣する北海道選手団の代表選手の予選会も兼ねているため、これを目標とする各選手は高いモチベーションで大会に臨み、好記録が期待できるなど、競技力向上にも大きく寄与するものとなっている。

大会名	開催日
	会場名
第41回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会	令和8年6月21日(日)
	月寒アーチェリー場(札幌市)
第27回北海道ボッチャ選手権大会(共催)	令和8年8月16日(日)
	道立野幌総合運動公園(江別市)

タンDEMサイクリング大会	令和8年8月23日(日)
	セラミックアートセンター (江別市)
第37回北海道障がい者水泳大会	令和8年9月13日(日)
	平岸プール (札幌市)
第29回北海道障害者フライングディスク大会 (共催)	令和8年9月26日(土)
	つどーむ (札幌市)
第38回北海道障がい者ボウリング大会	令和8年9月27日(日)
	GiGO BOWL イオン札幌手稲 (札幌市)
第38回北海道障がい者卓球競技大会	令和8年11月15日(日)
	札幌市身体障害者福祉センター

## 2 大会派遣事業

### 第25回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいへの理解を深め、社会参加の推進に寄与することを目的として派遣する。

本年度の第25回大会は、10月に青森県で開催され、北海道選手団は個人7競技に68名の選手を派遣する計画であり、スタッフも含めると110人の選手団が参加する。参加選手については、当協会が主催もしくは共催する各競技大会出場選手を対象に、派遣選手選考委員会において選考し、帯同するスタッフは、パラスポーツ指導員資格保有者をはじめ、派遣にあたり必要となるスキルを有する者を中心に編成する。団体競技は、本年5月に青森県で実施される、北海道・東北ブロック予選会を兼ねるリハーサル大会での優勝チームを派遣する。

なお、本年は、愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会と大会日程に重複があり、このため会期が変則となっていることから、2班編成での派遣となる。

選手団の派遣にあたっては、事前の強化合宿を2班編成で実施し、選手とスタッフが起居を共にする3日間で、個々の選手の競技能力と適性を見極め、参加出場種目を決定する。

本事業は、日常の地域活動の成果を確認するとともに、その経験を地域へ還元する役割も担うものである。

#### ■強化合宿 道立野幌総合運動公園 (江別市)

第1班 令和8年5月22日(金)～24日(日) アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボッチャ・ボウリング

第2班 令和8年5月29日(金)～31日(日) 陸上競技・水泳

#### ■北海道・東北ブロック予選会 (団体競技) 複数の予選会にチーム派遣予定

#### ■選手団派遣 青森県 選手68人・スタッフ42人 (団体競技未定)

第1班 令和8年10月21日(水)～26日(月) 陸上競技・水泳

第2班 令和8年10月22日(木)～27日(火) アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボッチャ・ボウリング

#### ■大会開催 令和8年10月23日(金)～26日(月)

■ 競技会場（個人競技）

式典/競技名	式典/競技会場	派遣選手数
開・閉会式	新青森県総合運動公園 マエダアリーナ（青森市）	－
陸上競技	カクヒログループアスレチックスタジアム（青森市）	29人
水泳	マエダアリーナ 50mプール（青森市）	10人
アーチェリー	新青森県総合運動公園 投てき・アーチェリー場（青森市）	2人
卓球	カクヒログループスーパーアリーナ（青森市）	10人
フライングディスク	弘前市運動公園陸上競技場（弘前市）	9人
ポッチャ	青森県武道館（弘前市）	2人
ボウリング	三沢ボウル（三沢市）	6人
	計	68人

■ 派遣選手選考委員会（第26回全国障害者スポーツ大会「宮崎県：R9.10.23～25」）

令和9年1月予定 かでの2・7会議室 選考委員8名

## II 指導者育成等の事業（公益目的事業2）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

### 1 指導者育成事業

#### (1) 障がい者スポーツ競技指導者研修会

障がい者スポーツの振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上を目指し、障がい者スポーツ指導者を養成することにより、障がい者の自立と社会参加を促進するとともに、障がい者スポーツ環境の一層の充実を図ることを目的として実施する。

研修会は、障がい者スポーツ特有のルール、種目を有する陸上競技、車いすバスケットボール、フットソフトボールの3競技について、10月に開催する北海道障がい者スポーツ大会の競技運営に携わる、主として地元の審判員を対象に実施し、ルールを学び、研修を積むことにより、同大会の円滑な競技運営と地域における障がい者スポーツのマンパワーの拡充を図る。

研修会には、講師として、各競技のエキスパートを現地に派遣し、実技も交えた実践的な講習を行う。

■ 競技指導者研修会実施計画

研修会名	実施予定	研修対象団体
陸上競技審判研修会	未定	室蘭地方陸上競技協会
車いすバスケットボール競技審判研修会	未定	北海道車いすバスケットボール連盟
フットソフトボール競技審判研修会	未定	豊浦町ソフトボール連盟

## (2) 初級パラスポーツ指導員養成講習会

障がい者スポーツの振興と専門的な知識、技術を有する人材の養成、資質向上を目的、日本パラスポーツ協会公認の指導員養成講習会を3日間の日程で実施する。

本講習会受講により取得できる初級パラスポーツ指導員とは、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの楽しさや喜びを重視した、スポーツ参加のきっかけ作りを支援する者と位置付けられており、その養成は、障がい者のスポーツ実施率向上や地域における障がい者スポーツの環境整備など障がい者スポーツの裾野の拡充を図る上で、地域における受入体制の基盤となるため、重点的に取り組む課題である。

また、公認指導員の資格制度については、初級指導員取得後2年以上80時間以上の活動実績があれば、中級指導員の受講資格が発生するというように、順次ステップアップできる制度になっている。

- 開催年月日 令和8年11月6日(金)～8日(日)
- 開催地 札幌市(北海道青少年会館コンパス)
- 受講定員 24名
- 講習内容 全21時間(講義・実技)

## 2 普及啓発事業

### (1) 障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入れるための契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施する。

本教室では、実施団体の自主性を重んじており、競技種目等は地域のニーズに応じて自由に選択できるものとし、講師の人選や会場の確保、参加者募集から教室の運営まで、実施団体が主体的に取り組むことにより、スポーツが日常化するという好循環が生まれ、教室の開催を契機に、道内のあらゆる地域に障がい者スポーツの活動が根付くことを目標としている。

#### ■障がい者スポーツ教室開催計画

項目	実施内容
教室回数	20教室
参加対象	満年齢13歳以上の障がい者(身体障がい・知的障がい・精神障がい)
競技種目	陸上競技、水泳、卓球、ボッチャ、ボウリング、モルックなど

### (2) 会報紙の発行

当協会の事業内容や活動状況などの情報発信を行うことを目的として、会報紙を発行する。

会報紙「飛躍」は、隔月で年6回発行しており、当協会の活動の支援者である賛助会員が、主な購読者になっている。内容については、主として当協会の事業に関する計画や報告を、適時性をもって掲載するほか、写真を効果的に活用し、読みやすい紙面づくりに努めている。

### (3) ホームページの運用

当協会の活動内容や最新の障がい者スポーツ情報をリアルタイムで発信することを目的として、ホームページを運用する。

ホームページでは、当協会の事業の案内のほか、豊富な写真等により障がい者スポーツの魅力の発信に努め、閲覧者にとって利用価値の高い運用に努めている。また、スポーツ大会やスポーツ教室の参加申込書類がダウンロードできる機能や、いかなる端末からも閲覧しやすいデザインとし、ユーザーの利便性の一層の向上を図っているほか、速報性の高いSNS（Facebook、X、Instagram）との連動により、より利便性が高く、幅広い層からのアクセスのある運用を目指す。

## 3 団体助成事業

### 障がい児者スポーツ団体助成

道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的として助成する。

この事業は北洋銀行からの資金提供及び道の補助金によるもので、いずれも1団体につき上限を10万円とし、前者は総額で90万円、後者は総額100万円を助成する。

これにより、本道の障がい者スポーツの普及発展を推進するため、活動母体となる障がい者スポーツ団体の事業の活性化を図り、障がい者がスポーツに参加する機会の充実や環境の整備を図る。

なお、助成が決定した団体には、事業完了後、報告書及び必要書類の提出を義務付けている。

## Ⅲ 管理部門

### 1 会務

#### (1) 監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和8年4月下旬	かでの2・7 事務所	令和7年度事業報告・決算・理事の執行状況

#### (2) 理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和8年5月中旬	かでの2・7 会議室	第1回理事会（令和7年度事業報告・決算）
令和9年3月中旬	かでの2・7 会議室	第2回理事会（令和9年度事業計画・予算）

#### (3) 評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和8年6月上旬	かでの2・7 会議室	定時評議員会（令和7年度決算）